

(財)米子市教育文化事業団

文化財発掘調査報告書 28

鳥取県米子市

# 福市遺跡(宮畑地区)

1998. 3

財団法人 米子市教育文化事業団

## 1 調査の概要

### (1)調査に至る経過

平成8年にカナートプロダクツ株式会社から米子市福市 743-1 ほかにおける宅地開発に係る埋蔵文化財の取扱の協議が米子市教育委員会にあった。

当該地は、周知の遺跡である福市遺跡のなかにあたり、発掘調査の必要が考えられた。そのため、開発予定地全域について、米子市教育委員会が平成8年度の補助事業による試掘調査を実施し、その結果に基づき、米子市教育委員会とカナートプロダクツ株式会社が協議を行い、遺跡が存在すると考えられる範囲について工事着手前に発掘調査を実施することになった。

発掘調査は、米子市教育委員会の指導のもと財団法人米子市教育文化事業団がカナートプロダクツ株式会社から委託を受け実施した。

調査は、財団法人米子市教育文化事業団の佐伯純也が担当し、米子市教育委員会の下高瑞哉が補佐した。

現地の発掘調査は、平成9年8月11日に着手し平成9年8月31日に終了した。その後、整理作業を実施し、平成10年3月31日に全体の事業を完了した。

発掘調査面積は、約500㎡である。また、発掘調査にかかった経費は、原因者であるカナートプロダクツ株式会社が負担した。

### (2)調査遺跡の概要

遺跡は、日野川左岸の丘陵上に位置している。周辺は、昭和40年代に宅地造成による開発を受け、往時の面影は残っていない。過去の開発時には、十分な発掘調査が行われておらず、遺跡の詳細については、不明の点が多いが、谷を隔てて西側丘陵に展開する国史跡福市遺跡と同様な古墳時代前期を中心とする集落及び古墳群と考えられている。当該地については、住宅地のなかに残る畑地として利用されていた。

調査地は、標高30m～29mの西に緩やかに傾斜する丘陵の斜面に位置している。

発掘調査は、表土を除去し、遺構の検出を行い、適宜掘り下げた。

土壌は、いわゆるクロボクが約30cmほど堆積し、その下層はローム層となっている。

調査によって、堀立柱建物跡1棟、溝1条、ピットなどを検出した。

遺物としては、古式土師器が出土している。



図1 発掘調査位置図 (1:25,000)



図2 発掘調査周辺図 (1:5,000)

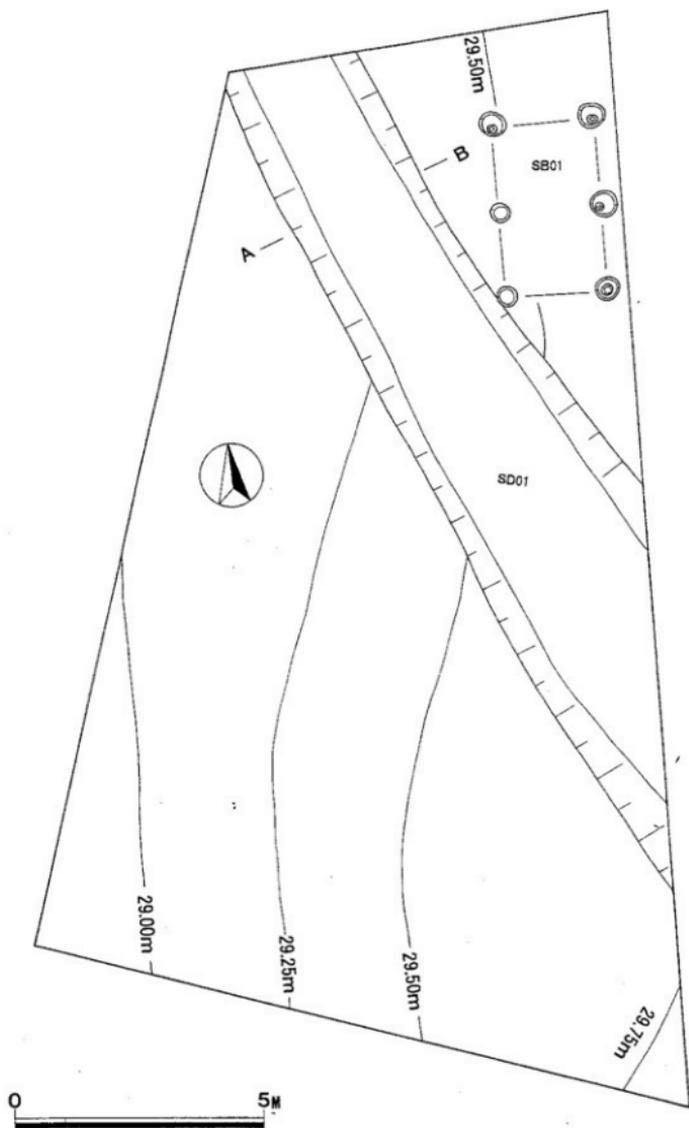


图3 发掘调查遺構全体図(1:100)

## 2 遺構について

### (1) 溝(SD01)

調査地のほぼ南東から北西に走る直線的な溝である。幅 2.8m、深さ 0.8m を測り、断面逆台形である。

埋土の上層であるクロボク層から古式土師器が出土しているが、この溝の時期を決定できるものではない。

この溝の性格としては、古墳の周溝が可能性として挙げうるが、直線的であること、周辺から遺物の出土がないことなどを考えると古墳に伴う周溝としては考えにくい。なお、近接する安養寺の境内には、過去に溝があったことが伝えられているが、この溝がそれに繋がるかどうかについては、検討の余地がある。あくまでも推定の域をでないが、中世の城館に伴う溝の可能性もあるのではないかと。

出土遺物としては、埋土の上層であるクロボク層から古式土師器が出土しているが、いずれも小片である。

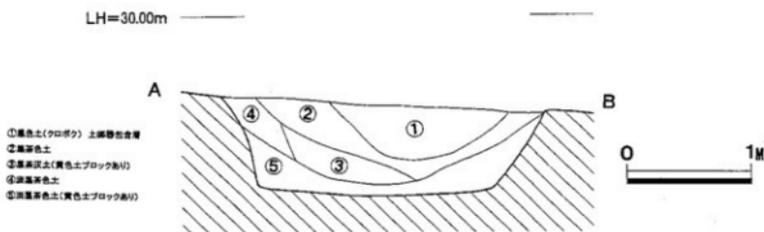


図4 溝(SD01)土層断面図(1:40)

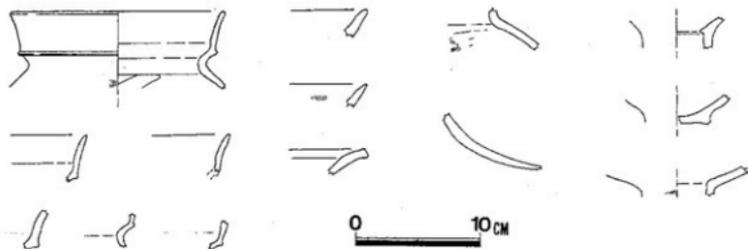


図5 溝(SD01)出土土器図(1:4)

## (2) 掘立柱建物跡

1間×2間であり、2.0m×3.5mを測る。柱穴には、二段掘りのものがあり、かなりしっかりとした建物の印象をうける。一部が、SD01と接しており、土層の観察からは、SD01よりも古い。柱穴の埋土はクロボクのみである。出土遺物がなく時期を決定できるものがない。

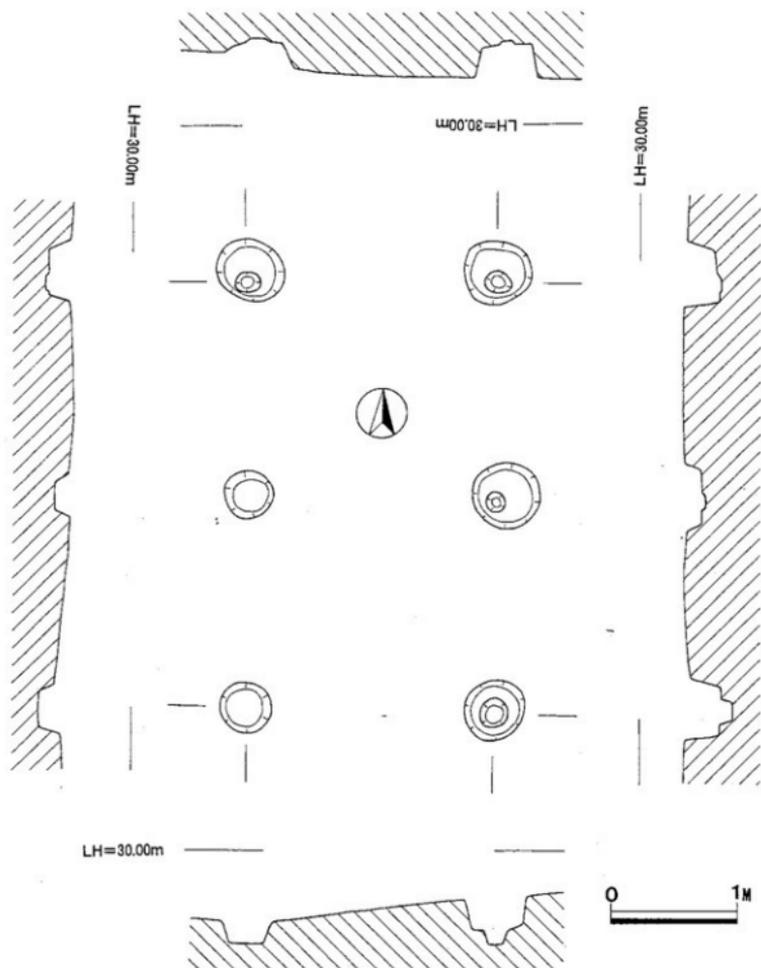


図6 掘立柱建物遺構図(1:40)

